

Homodes vivida Guenée ニジオビベニアツバの記録 藤平 明²

兵庫県の淡路島で表記の種を採集したので報告する。

本種の基産地はインドで、国内では本土南西部に分布、高知県、福岡県英彦山、宮崎県日之影町などに少数の記録があるようである（日本蛾類大図鑑 講談社）。

淡路島では初めての記録であり、中西明德氏（人と自然の博物館）によれば兵庫県でも記録がないとのことである。

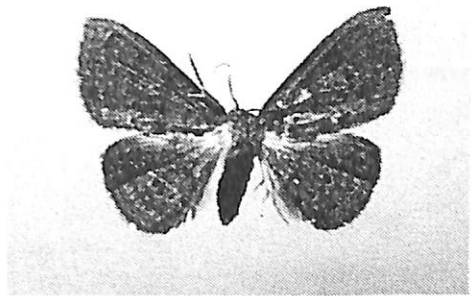
さらに徳島県立博物館の大原賢二氏に徳島県での状況をお聞きしたところ、徳島県での記録はまとまっていないということで、香川県環境研究センターの増井武彦所長を紹介された。

同氏によると、四国での初記録の発表は1971年、高知県西土佐山村（小林）。その後、高知市内で1985年（中村）、河上が足摺岬（1971）、室戸岬（1983）、須崎市ほか（1985）、愛媛県では1998～1999年にかけて（片岡）、香川県では1993年（増井）が初記録を報告している。隣の徳島県では未発表であるが、池田町、海南町、日和佐町で記録がある。今まで、四国では24地点、63頭採れているとのことである。

また、1990年ころから徐々にこの南方種が北上しかけており、今や、香川県のような北部まで侵入したと思います。平地の照葉樹林を中心に分布を拡大中と思う、とのご教示をいただいた。

一般に5月上旬～11月上旬に出現しており、一番多くは9月上旬とのこと。昨年は暖かかったというものの、南方系の種が淡路島でしかも11月に得られたのは珍しいのではないかとデータを下記に示す。

1. 採集地 南淡町福良丙（環境庁メッシュ地図 5134-25-94） 2. 採集年月日 8.Nov.1999 3. 開張 約24mm. 4. 採集方法 灯火採集 5. 採集者 藤平 明



（ふじひら あきら）

イッシキガガンボモドキを安乎町で採集 堀田 久³

イッシキガガンボモドキ *Bittacus isschikii* は、これまでに五色町と津名町で採集されているが、（本誌 No.39, No.42）、筆者は下記のように本種を採集しているので報告しておく。

2: 〒656 0511 三原郡南淡町阿万上町 794

3: 〒656 2124 洲本市安乎北谷 630

1999年7月5日 1♂ 洲本市安乎町北谷

なお、この個体は筆者宅の納屋の壁に静止していたもので、標本は筆者が保管している。

ヒメカマキリの採集記録

筆者は安乎町でヒメカマキリ *Acromantis japonica* を採集したが、島内における本種の採集記録は少なく、12月に入ってから生存していたことも珍しいと思われるので、ここに報告しておきたい。

1999年12月2日 1♀ 洲本市安乎町北谷

なお、この個体は筆者宅の近くにあるミカン畑の雑草に静止していたものであり、標本は筆者が保管している。

タイワンウチワヤンマを安乎町で採集

タイワンウチワヤンマ *Ictinus pertinax* については、東浦町でウチワヤンマとの混棲記録もあるが(本誌 No.26)、下記のように安乎町で本種を採集しているので報告しておきたい。

1999年7月17日 1♂ 洲本市安乎町北谷(筆者採集)

1999年8月17日 2♂ 洲本市安乎町北谷(森下笙採集)

採集地は、いずれも筆者宅の近くにある溜め池で、森下笙は筆者の孫(小学校3年)であり、筆者は当日このほかにも数頭の個体を目撃している。

なお、ウチワヤンマは安乎町でもかなり生息していたが、最近を確認していない。おそらく淡路島内ではウチワヤンマが減少し、タイワンウチワヤンマが増加しているものと思われる。

(ほりた ひさし)

編集後記

▽ 長年、兵庫県の甲虫相の解明に向けて精力的な活動を続けてきた高橋壽郎氏が、昨年('99)12月4日に急逝されました。本誌にも1972年に入会されて以来、多くの玉稿をいただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

▽ 前号でもお知らせしたように、本年度から原則として年1回の発行となりますが、原稿が集まり次第発行します。どしどしご寄稿下さい。
(TB)

PARNASSIUS No.49

2000年4月13日印刷

2000年4月19日発行

編集者 登日邦明

発行所 淡路昆虫研究会

〒656 2151 兵庫県津名郡津名町大町畑235

郵便振替 01170-3 49591

印刷所 れいめい社

〒656 0025 兵庫県洲本市本町5丁目124